

過去の記事をまとめました。かなり長いので閉じた形にしております。あしからずご了承ください。

この記事に関する過去の内容を読む

ニーチェの名言1

ニーチェの名言1～モチベーション向上のための



モチベーション向上のためのニーチェの格言1「初めの一步は自分への尊敬から」

自分はたいしたことがない人間だなんて思ってはならない。
それは、自分の行動や考え方をがんじがらめに縛ってしまうようなことだからだ。

そうではなく、最初に自分を尊敬することから始めよう。
まだ何もしていない自分を、人間として尊敬するんだ。

自分を尊敬すれば、悪いことなんてできなくなる。
人間として軽蔑されるような行為をしなくなるものだ。

そういうふう生き方が変わって、理想に近い自分、
他の人も見習いたくなるような人間になっていくことができる。

それは自分の可能性を大きく開拓し、それをなすとげるにふさわしい力を与えること
になる。

自分の人生をまっとうさせるために、まずは自分を尊敬しよう。

『力への意思』

[→超訳 ニーチェの言葉はこちら](#)

モチベーションを向上させるには、何がモチベーションのアップダウンに関わっているかを知るべきです。

それは2つしかありません。

- 1、自分以外の外部からの影響
- 2、自分の内部からの影響

そこで1つあなたに質問です。
どちらに焦点を絞ったほうが、モチベーションは安定するのでしょうか？

そうです。

2番の自分の内部からしっかりと自身を確立していくほうが、はるかにモチベーションの向上がみこめるのです。

わたしが常々気をつけていることがあります。
それは自分以外からの影響で気分を決められないようにすることです。
そうしないと、相手次第で自身のモチベーション
つまり気分も変わってしまいかねなくなってしまいます。

モチベーションは相手に決めてもらうのではなく、自身で決めるべきです。
一見当たり前のことですが、人は往々にして忘れがちなのではないのでしょうか？

かつての私がそうでした。

自分以外をコントロールすることは、自身をコントロールするよりはるかに大変です。

とはいえ、自身のモチベーションを安定し向上していくために、何もなければ気が減ってしまい、まるで栄養不足の状態に陥りかねません。
そこで大切なことは、自身にとって、モチベーションを向上してくれるような情報だけに触れるよう気がかけていけばいいわけです。

大切なことなので、もう1度いいます。

モチベーションを向上してくれるような情報だけに触れるよう気がかけていけばいいわけです。
そのためには、まず自分自身を「たいしたもんだ」という前提で見つめていくことこそ重要になってきます。

どんな状況でもやる気が残っている自分を前提として、尊敬していくことは、人間への尊敬になり、自分以外への尊重へも繋がっていくことでしょう。

それが動機付けとなり、モチベーションが最大限にアップしていくに違いありません。

動機付けへのきっかけは、人によってそれぞれ違いもあるでしょうが、今回紹介したニーチェの言葉からも、モチベーションを向上するヒントは数多く含まれておりますので、ここで紹介してみました。

ニーチェの名言2

モチベーション向上のためのニーチェの名言2



モチベーション向上のためのニーチェの格言2

「自分の評判など気にするな」

誰だって、他人から自分がどう思われているか知りたいものだ。
よく思われていたいし、少しは立派だと思われていたいものだし、
大切な人間の部類に入れて欲しいものだ。

だからといって、自分への評価を気にするばかりに、聞き耳をたてるのはよくない。

なぜなら、人間というのは間違っただけの評価をされるのがふつうのことだからだ。
自分が思うように、自分が望むように評価してくれることなんかほとんどない。

そういうものとは全然ちがう評価をされてるのがまったくふつうだからだ。
だから腹を立てないためには、自分の評判や評価など気にしてはいけない。
他人がどう思っているかなんてことに関心を向けては絶対にいけない。

そうでないと、本当は嫌われているのに、部長だの社長だの先生だのと呼ばれること
に
一種の快感や安心を覚えるような人間になってしまう。

『人間的な、あまりに人間的な』より

[→超訳 ニーチェの言葉はこちら](#)

自分の評価を気にしないからといって、好き勝手やっていいというわけではない、
ということは当たり前として...

自分を間違っただけあるいは正当な評価をしてくれる人にも、それぞれに”事情”というものが
あります。

(もちろん自分自身が知らないうちに評価している時もそうです)

”事情”というものは絶えず変化していきます。

たまたま気分が悪い時もあるし、良いときもあるし、自信に満ち溢れている時もあるれば、
自信を粉々に打ち砕かれた時もあるでしょう。

悩めるときもあるし、うまくいっている時も、っていない時も...
心とはとてもうつろいやすいものです。

他の観点からいえば、評判や評価が情報の集積として生み出されるのならば、それは基準が必要で、人殺しなどが法律に触れて評価を落とすことは当然です。
ただ、もしも1万年の基準をおいた時は果たしてどうなのでしょう。
もちろん今生きている時代に応じた基準が必要なかもしれませんが、集約して今の状態環境情報量で評価をしたりされたりするのなら、
評価をすること事態はどうあれ、されることをわざわざ気にする必要はありません。

なぜなら気にしすぎているは動けなくなってしまうからです。

この記事にしても、これでいいのか？
常に自問自答の連続ですが、何事も失敗の連続を乗り越えていくしかありません。

ただ自分自身が胸をはって生きていけるよう、日々チャレンジし自身を成長させていくことに目を向けていきたいものです。
そのためには謙虚に耳を傾けることも時には必要となってきます。

それは人間だけの評価にとどまらず、動物達や自然、はては地球からの評価まで含めて。

誰でも、未熟なところがあり、だからこそ...

[→超訳 ニーチェの言葉はこちら](#)

ニーチェの格言3

モチベーション向上のためのニーチェの格言3



『1日の終わりに反省しない』

仕事を終えて、じっくりと反省する。
1日が終わって、その1日を振り返って反省する。

すると、自分や他人のアラが目について、ついにはウツになる。
自分のためさにも怒りを感じ、あいつは憎たらしいと思ったりする。たいていは不快で暗い結果にたどりつく。

なぜかというと、冷静に反省したりしたからなどでは決してない。単に疲れているからだ。

疲れ切ったときにする反省など、すべてウツへの落とし穴でしかない。
疲れているときは反省をしたり、振り返ったり、ましてや日記など書くべきではない。

活発に活動しているとき、何かに夢中になって打ち込んでいるとき、楽しんでいるとき、反省したり、振り返って考えたりはしない。

だから、自分をだめだと思ったり人に対して憎しみを覚えたりしたときは、疲れている証拠だ。

そういうときはさっさと自分を休ませなければいけない。

「曙光」より

[→超訳 ニーチェの言葉はこちら](#)

日々頑張らなければという思いにせき立てられていく、日々反省し向上していかなければいけないという、このような社会の中で生きていくと、「反省をするな」なんてニーチェのこの言葉は一見逆を言っているようにみえます。

しかし最後まで読んでみると納得できます。

つまり『疲れていては何事もうまくいかない』ということなんですね。

もちろんより良い方向へ向けて改善を施していくことは大切です。とはいえ疲れていると、それすらも出来なくなってしまいます。

もちろん、いつもパワフルで元気であればそれに超したことはありません。しかし常に全力でやり続けていると、どうしても疲れが出てきます。

そこで今回の私からの提案は、ニーチェの「疲れたらさっさと休む」ということに加え【自分検診をマメに行う】ということです。

なぜ、このような一見当たり前のことをするのか？といいますが、気がつかないうちに疲れているという自分自身でさえも気がついていないことが多々あるからです。

なのでまず自分チェックをマメに行って状態を把握しておくことです。

その上で休むべき時はしっかりと休むようにします。

実はこのようなことはプロのスポーツ選手では当然のことなんですね。違うのはプロのトレーナーがしっかりと選手のコンディション(状態)を把握し休むべき時は休ませている、ということなんですね。これにより選手は安心してストレスなく全力で練習に取り込めるわけです。

これは何も過酷な練習を強いられているプロのスポーツ選手に限ったことではありません。なぜなら普段生活している我々も日夜頑張っているわけですから、しっかりと自分チェックをしていくべきです。

参考までに、もしあなたが結婚しているのであれば、パートナーにお願いして客観的に指摘してもらいたいでしょうし、独身であれば、家族や友人にお願いしてもいいと思います。客観的な自分分析はさらに冷静に判断できることでしょう。

ちなみにわたしの場合は”半年間はめいいっぱいやって半年休む、3年全力で走り続け、1年休む”というようなスパンで行っております。

その中で日々チェックしていく際に気をつけていることは、「今どのくらい疲れているのだろうか?」とチェックするのではなく「今、あとの程度の元気が残っているだろうか?」とチェックするようにします。

言葉の力は非常に重要です。「もしかすると疲れているかも?」と思い始めた瞬間、疲れが増していくことに繋がってしまうのです。

疲れはエネルギーが減った状態、だとみなし日々補充をしていくことです。しかし実はここで「残りかす」のようなものがあると、エネルギーを補充したときに、まるでガソリンと軽油が混ざったような状態で復活することになりかねないのです。

つまり「やるべきことをしっかりやれば、しっかり休める」のですが、逆に「ダラダラやっていると、ダラダラ休む」ということになってしまうのです。

普段愚痴や批判という負の要素が多いと、ブレーキを踏みながら中途半端な状態で頑張っているようなものです。もっと純粋にどんなにつまらないことに思えることでも、余計な考えをぬぐい去り、命をかけていけば、純粋に速攻で復活できます。

ちょっと休んだだけでも肉体精神共に復活できるようになるのです。※これは大げさではなく価値観を変化すればたやすく変えられる事実です。

すると良い循環に変わり、心に余裕が生まれてきますので、ゆとりを持って自身をチェックできるようになります。

すると更にしっかり休めるようになる。という具合です。

(他にも心の余裕から他人に大らかに接することができますので、ストレスも大幅に改善できます)

まとめ

ということは結論として「全力でやって、しっかり休む」ということになりますが、その為には自ら率先して、あえて自身を疲れさせればコントロールもしやすいし、しっかり休める、ということです。

これは頑張っているつもりの状態を作り出す、ということではありません。

つまり、人はコントロールできない事へストレスを感じるのであり、疲れもそうですが、何事にも逃げずに率先してチャレンジしていくことが大切、ということなのです。

ということで、これからも果敢に『チャレンジ』して参りましょう。

いつでも心には錦を飾りながら！！！！

ニーチェの格言4

モチベーション向上のためのニーチェの格言4



モチベーション向上のためのニーチェの格言4

『疲れたらたっぷり眠れ』

自己嫌悪におちいったとき、何もかも面倒でいやになったとき、
何をしてもくたびれて仕方ないとき、元気を取り戻すためには何をすべきだろう。

ギャンブル？ 宗教？ 流行のリラックス療法？ ビタミン剤？ 旅行？ 飲酒？

そんなことよりも、食事をして休んでからたっぷり眠るのが一番だ。
しかも、いつもよりずっと多くだ。

目覚めたとき、新しい力がみなぎる別の自分になっているだろう。

「漂泊者とその影」より

[→超訳 ニーチェの言葉はこちら](#)

ニーチェの格言から得られた気づき

前回のまとめ”自分検診をしながら全力で頑張りしっかりと休む”

今回の”気づき”では別の2つの観点よりみていきましょう。

- 1, 寝過ぎたらどうなるのか？
- 2, ゆっくりと寝る暇もなければどうすればいいのか？

それではまず、1の”寝過ぎたらどうなるのか？”
ということについてお話していきます。

例えば休みの日にずるずる家で寝転がっているとします。
あるいは昼過ぎに起きて眠れなくなり真夜中に寝て、という繰り返しをしていたとします。

いわゆる逆の観点からいいますと、”寝過ぎも体に悪い”ということですね。
健全な精神は規則正しい健全な生活に宿るとでもいいでしょうか。
朝日が昇る時刻に起きて、0時を過ぎないように寝床につく、これが理想ですが、夜勤などの関連で難しい場合もあるでしょう。
どちらにせよ日々のリズムを調節しながらやっていきたいところです。

とわいえ、あまり細かいことまで気にしすぎると強制的になってしまい、それ自体が
ストレスになりかねませんので、
ここでは、わたしが実際にやっていることをご紹介します。
わたしは、今日は”無理するぞ”今日は”のんびりやるぞ”と状況に合わせてメリハリを
つけています。
※実はこれは年ごとにやっています。
ある年は引きこもって、ある年は活動的になるという具合です。

さて、もう1つの”ゆっくりと寝る暇もなければどうすればいいのか？”ということについてですが、ニーチェは何よりもまずしっかりと休め、とっています。これは忙しいストレス社会に生きる現代人にも思い当たる言葉です。なぜなら、ストレス解消のために気分転換をやっていることが、実は休息を減らしている要因になりかねないからです。

ともあれ”気がつかないうちに疲れが重なり病気になってしまった”とならないよう、一歩先取りしながら自身を誘導していくことが大切です。

「自分は大丈夫。そんなこと当たり前でしょ。わかりきっていることだよ」
そうなんです。
わかっているつもり、知っているつもり、という慢心や惰性が1番怖い。

かといって「5時間30分きっちり寝られなけれんとやばか！」
と用心深くなり過ぎるのも考えものです。
要するバランスをとっていくことが大切だ、ということ。
ちなみにわたしが最も気をつけていることは陰陽のバランスです。

これは裏と表というよりも、裏も表もということであり、気にしながら気にしないというバランスです。
ということで今回のまとめです。

まとめ

寝過ぎずしっかりと寝るということに落ち着きました。
※これは食べることにも繋がるでしょう。

今回の最後になりますが、”何のために寝るのか？”これを忘れないで自問自答して
いってください。

さあ、まずはゆっくりと休める環境作りから！

ニーチェの格言5

モチベーション向上のためのニーチェの格言5



モチベーション向上のためのニーチェの格言5

『自分を現す三つの形』

自己実現とは自分の力を表すことである。その方法を大きく分けると、次の三つになる。

- 贈る
- あざける
- 破壊する

相手を愛やいつくしみを贈るのも、自分の力の表現だ。相手をけなし、いじめ、だめにしてしまうのも、自分の力の表現だ。
あなたはどの方法を取っているのか？

「曙光」より

[→超訳 ニーチェの言葉はこちら](#)

ニーチェの格言から得られた気づき

前回のまとめ”寝過ぎずにしっかりと寝る”

今回の”気づき”では、

贈る

あざける

破壊する

の3つの観点よりみていくことにします。

知らず知らず自身をおとしめてしまい、気がつけばモチベーションは最悪に...
そのようなことにならないために、今回のニーチェの言葉は自身の価値を高めていくことに非常に役立ちます。

まず心構えとしては、どれを選ぶせよ選択の自由を手に入れることが大切だということですが。

贈る

それでは、まず”贈る”からお話をさせていただきます。

中国の格言に

「君子は人に贈るに言(げん)を以(もつ)てし、庶人は人に贈るに財を以てす。」

とあります。

※この言葉は、紀元前3世紀頃中国の思想家孟子の性善説を批判し性悪説で有名な荀子の言葉です。

簡単に補足をすれば、君子は「言葉」を贈る、平凡な人は「財物」を贈るということになります。

なので一言で贈るといっても、その人によって違いが出てきます。
贈られる側も「見せかけだけの言葉よりお金がいい、好きな物が買えるし」という人がいるかもしれません。

ただお金も情報と考えるとあつて無いようなものです。

(これに関しての詳細は別の機会で)

言葉やお金やもの、どちらにせよ心がこもっていて相手が喜んでくれれば尚いいのですが、実は贈る内容や気持ちでも自分を現わす形となっているともいえます。

つまり贈りもの(プレゼンテーション)に対してもひと工夫加えることで、自身の価値を表すことができるのです。

あざける

それでは次に、2つ目の”あざける”

これはとてもわかりやすいですね。

例えばどんなに凄い人がいても、その人をあざけることにより、自分をその人よりまるで高くなったような錯覚におちいらせるトリックができます。

例えば、歴史上の偉人であるエジソンであったとしても...

「結局、エジソンっていても、権力の亡者でいやらしかったっただけだろ」と一言で片付けようと思えば出来るわけです。

つまり、どんな事に関しても何とでも言えますよね。

これは一見簡単で効率的な方法に思えるかもしれませんが、その身が伴わなければ結局は虚勢であり、かえって自身の滑稽な姿が鏡に映し出されるだけです。

たしかにそれ事態は自由な自己表現方法ですので、一概に良い悪いとはいえないのかもしれませんが。

ただ人と比べてあざけることで自身の価値を上げるよりも、人と比べずにありのままの自分でありたいものです。

ありのままの自身を磨いていけば、他人に左右されない不動の自分を築いていけるようになります。

破壊

それでは最後に、3つ目の”破壊”です。

これはある意味自己表現の中でも最大のパワーとなります。

故に闇に憧れてしまう心も存在してしまうのです。

その力を使い積み上げたものが熟し切った時、破壊することで0に戻し、また1から吸い上げるという時代の繰り返しはそろそろ終わりにしなければいけません。

ともあれ破壊という力を使い、自分を表現するという行為。

これは、2つ目の”あざける”以上に、相手を批判することにより自身を高めようとする行為です。

この行為は自分を破壊するリスクも背負わなければなりません。

なので世界レベルでは「この行為を他にやらせる」という戦略もあります。

そして破壊の後、自身は何食わぬ顔で救いを差し伸べ信頼を得る。という方法です。

しかし、実は世界レベルでなくてもこの方法は多用されているのをご存じでしょうか？

具体的には、まずその人の価値観を破壊し不安に陥れ、その後問題解決の糸口を渡す。

という方法です。この方法はあちこちで見られます。

今回の主題は表現方法ですが、この視点でみていくと、様々なものが見えてくるようになるのです。

ちなみに現代が”贈る”よりも、どちらかといえば、”あざける”や”破壊”が多用されているのは、世の中のシステムが、贈ることで、更に多くのものを贈ってもらわなければならない仕組みになっているからともいえます。※例えば金利など。

なので贈りものにしろ、何か人にしてあげる行為にしろ、ややもすれば「バカみたい、そんな時間も暇も余裕もない。そんな暇があったら…」となってしまいます。そう

です。増やし続けないと現状が保てないシステムにみんな疲れ切っているのです。
※増えたものが回ってくればまだましなのかもしれません。残念ながら現状では一部に集まっていくピラミッド型のシステムとなっています。

贈るよりも奪い取るほうに主軸がおかれている現代。
しかしこれは、ただお金の流れにあわせた仕組みにすぎません。
心、というものに立ち返れば、真心からの贈りもので十分なはずです。
心は無限です。枠組みさえ取り払えば...

はい。

ということで、今わたしにできることは様々な視点からの”気づき”をあなたに贈ること
です。
これからは更に多くの気づきをお届けしていきますね。
今日も自分らしく自己表現にチャレンジしてまいりましょう！

それでは今回のまとめです。

まとめ

自己表現を工夫していくことで、自身の価値を高めていくことができる

今回の最後になりますが、”今どんな方法で自己表現を行っているのか？”これを忘れないで自問自答してってください。

さあ、まずは鏡と向き合ってみましょう！

ニーチェの格言6

モチベーション向上のためのニーチェの格言6



モチベーション向上のためのニーチェの格言6

『誰にも一芸がある』

どんな人にも一芸がある。その一芸は、その人だけのものだ。
それを早くから知っていて、十分に生かして成功する人もいる。
自分の一芸、自分の本領が何であるか。わからないままの人もいる。
それを自分の力のみで見出す人もいる。世間の反応を見ながら、自分の本領は何
だろうかと模索し続ける人もいる。
いずれにしても、くじけず、たくましく、果敢に挑戦を続けていけば、自分の一芸がわ
かってくるはずだ。

—「人間的な、あまりに人間的な」より

[→ 超訳ニーチェの言葉はこちら](#)

ニーチェの格言から得られた気づき

前回のまとめ:「自己表現を工夫していくことで、自身の価値を高めていくことができる」

1. 一芸とは？
2. 一芸を発見する方法

1. 一芸とは

ニーチェは「誰にも一芸がある」と言っています。今回はその「一芸」という部分にスポットを当ててみました。

通常、一芸とは特技や性に合うことを指します。しかし「何でもそつなくこなす」ことも一芸と言えるかもしれません。つまり、自分以外の人より何か優れている部分を見つけ出すことが重要です。

2. 一芸を発見する方法

ポイントは「発見しやすくする」ことです。例えば「宝探し」だと思ってください。埋蔵された宝が見える位置にあれば、発見されやすいです。これと同じように一芸も自分の中の才能を開花させ、目立たせていくことが大切です。

脳内物質を利用した自分に適した一芸の発見方法

一芸に必要な要素は「継続」です。「あ、これ違うな」と次々と変えてしまうと何もマスターできません。生涯続けられるものを探し、鍛え続けていくのです。

最初は自分でも驚くほど下手だと思うかもしれませんが。でも恥や失敗を恐れず一心不乱に打ち込んでいくこと。それができるかどうかの違いが未来を決めます。

まとめ

一芸をマスターするには、まず短期間に「異常なほど」集中してやってみること。

自分の選んだ一芸、あなたは忘れていませんか？常に自問し続けてください。

さあ、今すぐ行動を起こしてみましよう！

ニーチェの名言と格言、そして思想に本で触れる(まとめ 1)

ニーチェの名言と格言、そして思想に本で触れ、超人ニーチェの深遠なる言葉はニーチェの超訳で読むことができます。

書評は他でみていただくとして、ここではニーチェについて注目の集まっている内容で様々な角度から簡単にまとめておきます。

※おおざっぱなのは否めませんが、関連の言葉は発見できると思いますので詳細は自身で調べていただくとよいでしょう。



ちなみに超訳の意味は直訳ではなく意識を更に洗練したものだということです。

アカデミー出版社が登録商標を持っていて、ニーチェの超訳の他にも古事記・資本論・論語などが出版されています。

アカデミー出版社というよく雑誌や新聞などの広告で出ている英語の教材、家出

のドリッピーやゲームの達人が有名ですね。

他にもクリントン西森さんの「ジョーク世界一～毎日笑って半年笑える」が知られています。

ジョーク世界一は続編が出ていて著者は同じ方ではなく天馬 龍行という方が出されているようです。

ニーチェから話がそれないうちに戻しますね。

ニーチェの名言や格言は思想として光をはなっています。詳細は先ほど出てきました超訳ニーチェの言葉やあるいはこちらのページに載せましたページでも見ることができます。(下の方にあります)

ニーチェの思想で有名なのは『超人・獅子・ラクダ』と人間存在の序列を分類していることです。

平たく言えば、盲目的従属(ラクダ)・それを管理する者(獅子)・それらニヒリズムを克服する超人です。

ニヒリズムの意味とは一言でいえば自意識過剰から生まれる孤独と絶望ということ、反意語に無意識過剰がありますが、どちらも他人が存在しそれらを気にするかないかということでバランスが必要です。

フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ がいう超人とは、永遠に繰り返される永劫回帰の**虚無感**すらも克服する超人ということです。

永劫回帰の意味は、

『超人的な意思によってある瞬間とまったく同じ瞬間を次々に、永劫的に繰り返すことを確立するという思想である。ニーチェは『この人を見よ』で、永劫回帰を「およそ到達しうる最高の肯定の形式」と述べている。』wikipediaより

ここでは永劫回帰は全てを個人幻想で時間軸すらも超えられる事を主張したいとも解釈しうる。と編集されています。

※私自身はニーチェに関して学び始めたのはごく最近ですが、潜在意識革命を出した5年ほど前にインスピレーションでおりにきたものと類似していて驚きました。

[→その後記事にしたのは図と共にこちらで読めます。](#)

(例えば今この瞬間も無限に繰り返されている中で存在している、というわけです。)

ビルヘルム ニーチェといえば、『ツアラトウストラ』などの著作の中で「神は死んだ」と宣言したことで有名です。

アフォリズムとしてもニーチェの言葉は短い中に深淵な思想が含まれております。現代的には神は2度死んだというとらえられ方があるようです。

1つは聖書とは奴隷たちの慰めの書物だと知り弱者の傷の舐め合いになって墮落させる。

もう1つは神がは1つではなく認識により変わってしまうことがわかった。ということです。

似ている意味をなす言葉でミッシェル・フーコーの「人間の終焉」があります。

これは近代的な知の枠組みが終わった意味にもとらえられるのですが、人間という概念というのは浅い歴史であってそもそも人間が人間について考える自分チェックには矛盾があり、その根拠をねつ造され利用されていたのを暴いて人間という概念は終焉むかったということです。

同じような意味が、もう1つリオタールの「大きな物語の喪失」の大きな物語の条件は18世紀から19世紀あとのポスト・モダン(近代のあと)の物語ということですが、終焉につきましては様々な解釈があるかと思われます。

ニーチェは他にも実存主義の先駆者または生の哲学の哲学者ともされております。

実存主義はサルトルが有名ですが、存在と無を理解しようと思えば「サルトル哲学序説」がお勧めだということです。

生の哲学とは体験としての生の直接的把握を目指した哲学そして生そのものへのアプローチしていく精神史の思潮のひとつです。実体2次元論で代表的なルネ・デカルトの「我思う、ゆえに我あり」はあまりにも有名です。

この意味はどんな疑いを持ったとしても、それを意識して思うがゆえに自分の存在は疑いないということです。更に生の哲学は生の根本へアプローチしています。

ニーチェに限界を感じていたり救済を求めていたり、色々だと思いますが、どちらにしてもこの世(経済中心の社会)の生に対する苦悩や運命から救済を求めるとしたら、

もしかすると救済を求める自体が救済されない仕組みなのであって参考としては大変役立つものなのかもしれません。(処方箋があれば尚良いのですが)

ちなみにビルヘルム・ニーチェはUVERworldの新曲の「GOLD」の中で歌詞に「ビルヘルム ニーチェに憧れて・・・」という歌詞が入っているらしいです。（まだ聞いたことないので、これをきっかけに聞いてみるつもりです）今回は大まかとはいえ流石に時間が足りなかったので、次回に持ち越します...あしからず

ニーチェの名言と格言、そして思想に本で触れる(まとめ 2)

ニーチェの名言と格言において、深淵という言葉は切っても切り離せないといっても過言ではないでしょう。今回の始めにニーチェの言葉の中でも”深淵”という言葉をつかった格言・名言をいくつかあげてみることにしました。



怪物と闘う者は、その過程で自らが怪物と化さぬよう心せよ。
おまえが長く深淵を覗くならば、深淵もまた等しくおまえを見返すのだ。
『善悪の彼岸』
人間は深淵に架けられた一本の綱である。

渡るも危険、途上にあるも危険、後ろを振り返るも危険、身震いして立ち止まるのも危険。

『ツアラトウストラかく語りき』

『善悪の彼岸』に『道徳の系譜』もついています。

24のシーズン7の出だしのシーンを思い出しました。

彼がCTUで囚人を拷問した件で、アメリカ政府が告訴しワシントンから召喚令状を受け取って証人台シーンで彼が言った台詞

「法律を無視するやつらと戦うには法律を守ってはいは戦えない」

このようなニュアンスだったと思います。設定と24がシーズン8で終焉を迎えるということもあり深さを感じました。

彼は国のために戦うことで、かけがえのない家族を失い、大切な部下も失い、裏切られ、あげく国に告訴されるのです。

デビルマンの原作でも同じようなシチュエーションが登場します。

人間を守るために犠牲になり戦っていたデビルマン。大切にしている人間を人間に殺されたあげく化け物扱いされるのです。

デビルマンの印象に残る台詞

「俺はこんな人間達を守るために戦っていたのか」

ニーチェの話に戻します。ニーチェといえばwikiでもとても詳しく情報が出ていますが少々難しところもあるので、yahoo知恵袋などでの質問をみたほうがわかりやすい素晴らしい回答が多く出ております。ニーチェの神の死にしてもそうですし、永劫回帰にしてもニヒリズムも様々です。

現実の砂漠といえばフリードリヒ ニーチェの「砂漠は育つ。悲しいかな砂漠を内に蔵する者は。」との言葉もあります。

ニーチェをトルストイは「ニーチェは愚かで常軌を逸している」との言葉を残しています。ついでにトルストイの言葉も少し載せていおきましょう。

「この世で成功を収めるのは、卑劣で汚らわしい人間ばかりである」『戦争と平和』

「ああ、金、金。この金のためにどれほど多くの悲しいことがこの世に起こることであろうか。」

ニーチェを別の角度でみていきましょう。

ニーチェの「愛の言葉 美女をつくる60の条件」という本も出版されています。

このような言葉が目白押しです。
「朝はコーヒーより紅茶を飲みなさい」
「健康な人になりなさい」
「女性は、自分の強さを知らなければならない」

他には永劫回帰から「ツアラトウストラの謎」もお奨めの本といえます。

ニーチェの言葉で最近出た話題としましては、サッカー選手の長谷部誠選手がニーチェの言葉を引用したことです。

『キノコは風通りの悪いところに生える』と話したそうです。

そのような中、超訳ニーチェは販売数をのばしていったのですが、そうになると批判もあるわけで、哲学に詳しい？人の間では評判が悪いらしいのです。

池田信夫氏も、深淵なるニーチェの表だけみている超訳を「愚劣」な本だとけなしているとのことですが、その批評すらどうなのか？ということ...

結局影響から始まった永劫回帰なのかもしれません。

まだパフォーマンスとしてのモデル&俳優の中野裕太君が、「ニーチェを超えた天才」と自称しているほうがお笑いとして面白いですね。

ニーチェの芸術に関する本としましては、『ニーチェと生理学—「芸術の生理学」構想への道—』が出版されております。

先ほどの白鳥晴彦 編訳「超訳ニーチェの言葉」に関しましては、様々な方が奨められているようです。例えばディスカヴァー・トゥエンティワン取締役社長である竹内結子社長です。

ニーチェのキリスト教的な道徳批判として「神の死」につながり近代への価値の転換へも広がっていきます。なので現代でも読むべき価値を与え続けているのでしょう。例えば最近の若者たちの「サイレント・テロ」は「代書人バートルビー」でいう日本の黒船時代に既に起こっていたということですが、ニーチェが「人は自ら憎むところのものとなる」というがごとく、「何もしない抵抗」ということについては、これから深く考えていかなければならないのでしょうか。

続く...